

はじめに

若い医療従事者に「循環器系の治療を挙げてください」と聞かけると、真っ先に挙がるのはやはり“冠動脈インターベンション”である。では、その次はというと、ほとんどの若い方は“カテーテルアブレーション（アブレーション）”と答える。薬物治療よりも優先順位が高いことに驚く。循環器というと観血的治療というイメージがあるのかもしれない。小生はカテーテルアブ治療に創世記から関与してきたこともあって、なんだか嬉しい気持ちになってしまう。

思い起こせば、アブレーションが日本に本格的に導入されたのは1990年代に入ってからであり、歴史としてはまだ浅い。また、焼灼の熱源として、長らく高周波電流がアブレーションの主流であったが、近年になって冷凍凝固（クライオ）やレーザーなども登場してきて、この領域はめまぐるしい勢いで進化している。対象となる不整脈も、発作性上室頻拍から心房粗動、そして心房細動へと拡大し、時として心室頻拍にも応用されるようになった。このようにアブレーションが進歩したのには、理由がいくつかある。まずは通電用の電極カテーテルが自由自在に操作できるように改良されたことである。次は何といても、高性能のマッピング装置が登場してきたことが大きい。電位図としてしか捉えることができなかった不整脈を、

地図を見るように目で見て、かつ動画で理解できるようになったのである。その一方で、初心者においてはアブレーションを理解することが難しくなってきたようにも思われる。

そこで、このような難点を払拭すべく、初心者の目線でみわかりやすいアブレーションの入門書を発行することにした。統一性を図るために執筆者は皆、東邦大学病院のスタッフとした。内容としては徹底的にわかり易さを追求した。そのうえで最新の技術的な進歩についても解説することにした。本書を活用することでアブレーションに対する苦手意識を克服し、この治療法のエキスパートになっていただけると確信している。

2019年2月

東邦大学 教授

池田隆徳

